

消費者教育 実践事例集

「社会保障人生ゲーム」を通じて 社会保険や民間保険の必要性を学ぶ

浅川 貴広 Asakawa Takahiro 東京都立蒲田高等学校 主幹教諭

エンカレッジスクールである蒲田高校で“学びのユニバーサルデザイン”をめざす公民科教育に取り組む。2019年夏、東京都消費生活総合センターの教員向け講座等で講師を務めた。

「現代社会」の授業で 実践を考えた背景

民法の改正に伴う成年年齢の引き下げが迫る一方で、当事者となる生徒は実感を持つことができているようすも散見されます。また、本校はエンカレッジスクールとして、中学校までの学び直しをうたった学校で、高校を卒業してすぐに就職する生徒も一定数います。そういった背景から、社会保障制度(特に社会保険)に関する理解を深め、民間保険も合わせて今後のライフプランを考えていく必要があります。そこで、学習面で課題を抱える生徒であっても学びやすい“学びのユニバーサルデザイン”をめざして本授業実践に取り組むこととしました。

授業のねらい

本授業でのねらいを次の2点としました。

- ①いわゆる“老後2000万円問題”など、社会保障制度に対する“ぼんやりとした不安感や不信感”が根強いいため、制度の本来の意義や今後の見通しに関する客観的な事実を理解させて、今後のライフプランを考えさせる。
- ②社会保障制度の学習のメインは年金や介護保険制度など「共助」であるため、民間保険による「自助」の必要性も含めてより広い視野でライフプランを考えさせる。

「社会保障人生ゲーム」の概要

1. 本教材作成の経緯およびねらい

社会保障の単元の学習はどうしてもその制度の理解に時間を要し、講義が中心の授業となり

ます。また、“老後の話”にとらえられてしまい、今後の日本における重要なテーマであるにもかかわらず、生徒はどこか他人事^{ひとごと}として考えてしまいがちです。一方、社会保障制度があれば大丈夫と過度に共助に依存し、ある程度は自分で人生のさまざまなリスクに備えなければならないという観点が抜けてしまう生徒もいます。

そこで、人生を模擬体験できるゲームで今後の人生をシミュレーションすることにより、社会保障制度の意義や、民間保険などにより自分で備える自助の必要性を考えさせるのが本授業で用いた教材「社会保障人生ゲーム」です。先述の2点の授業のねらいを実現し、かつ学習面で課題を抱える生徒であっても学びやすい“学びのユニバーサルデザイン”をめざしていくことが本教材のねらいです。

2. 本教材の特長および工夫した点

本教材の特長は、“楽しみながら”社会保障制度の意義や、民間保険などにより自分で備える自助の必要性を学習できる点にあります。後述のとおり、今後の“仮想の人生”を歩みながらライフイベントを設けたり、保険の加入の有無による比較をしたりして学びを深められるようにしています。

一方で、要素を詰め込みすぎないようにしました。シンプルにすることで理解しやすいようにしながら、発展要素を入れる余地を設け、どのような学校でも活用できるようにしました。

単元の構成と授業実践の展開

1. 単元の全体構成

本校の1年生では現代社会を始めとした一部

図1 「社会保障人生ゲーム」記録シート

	収入	支出	(公)保険料	(民)保険料	預金(残高)
25歳	万円	万円	万円	万円	万円
35歳	万円	万円	万円	万円	万円
45歳	万円	万円	万円	万円	万円
55歳	万円	万円	万円	万円	万円
65歳	万円	万円	万円	万円	万円
75歳	万円	万円	万円	万円	万円
最終残高					万円

の教科・科目に30分授業が導入されているため、本単元は5時限扱いとしていますが、50分授業では2～3時限分となります。

- 第1時限 社会保障に関する基礎知識(習得)
- 第2時限 社会保障人生ゲームの実施(活用)
- 第3時限 日本の社会保障をめぐる現状(習得)
- 第4時限 社会保障の担い手とあり方(活用)
- 第5時限 持続可能な社会保障のために(探究)

「社会保障人生ゲーム」は第2時限に置くことにより、第3時限以降でこれからの社会保障を考える前段階として、その意義を理解させる役割を持たせています。また、共助だけでなく、自助とのバランスで社会保障制度を考える視点を持たせる役割も担っています。

2. 「社会保障人生ゲーム」の展開

まず、クラスを①「保険」にまったく加入しないグループ ②公的な保険制度(社会保険)にのみ加入するグループ ③公的な保険制度(社会保険)と民間保険のどちらにも加入するグループに分けます。図1のワークシートのとおり、25歳から75歳までを10歳刻みでの6ターンとしてゲームを行います。ワークシートの「収入」と「支出」は各ターンの出来事で変化し、②グループは公的保険の保険料、③グループは公的保険と民間保険の保険料を負担します。

実際に1つのターンを例に実践内容を紹介します。図2を見てください。例えば、35歳のターンでは収入は全員同じですが、サイコロの出た

図2 35歳のターンのゲームの内容

“社会保障人生ゲーム” ターン②(35歳)

<ターン②(35歳)>
結婚し、子どもができたあなた。
家族のために頑張る毎日です。

【収入】 30万円	サイコロで「か」の目が出た場合、草野球の試合で骨折したため、治療費として10万円の支出です。
【支出】 15万円	↓
【(公)保険料】 4万円	②グループの方は医療保険により3万円、③グループの方はさらに民間の医療保険で無料です。
【(民)保険料】 2万円	

追加の収入や支出は、上の基本収入、支出に加算してください。

目により、けがの治療費が支出に加算されます。しかし、②グループは公的医療保険による“3割負担”で加算は3万円となり、③グループはこの前のターン(25歳)で民間の医療保険に加入していたので、支出は加算されません。逆に①グループは最大で支出が25万円となります。

実践後の生徒へのアンケートによる肯定的評価は約94%となり、社会保険や民間保険の必要性が分かったと答えた生徒は約97%となりました。また、「これから先いつ何が起こるか分からないなか、社会保険の役割とともに自分のライフスタイルに合わせた民間保険が必要だということが分かった」といった記述も多数寄せられました。

高校生の段階では目先のことにとらわれがちで、なかなか人生の見通しを考えることが難しい傾向があります。しかし、アンケートや授業後のようすからは、本教材により、生徒が楽しみながら自らのライフプランを考え、その中でそのリスクに対する安心感としての社会保険や民間保険の意義や役割を理解できたと考えます。

3. 本教材の発展例と課題

本教材の発展事例として、例えば、自助の内容に民間保険だけでなく金融商品を加えて、金融リテラシーの育成もめざすことなどが挙げられます。発展させていくなかでは、他教科や外部の専門機関との連携も欠かせません。新学習指導要領の実施を控え、他教科、外部機関等との連携を今後の課題と考えています。